

報道関係者 各位

2018年7月30日
株式会社アークノハラ

タイマー等により自動昇降し、無人で車両通行規制を実現 「自発光ソフトライジングボラード」を8月より発売 安全安心な街づくりのための新たな取組み

株式会社アークノハラ(本社：東京都新宿区、代表取締役社長：赤川喜和)は、安心安全な街づくりを目指し、街なかでの様々な課題を解決すべく、多種の安全施設・ソリューションを提案・提供しております。

このたび、生活道路や中心市街地の安心安全のための取組みの一つとして、積水樹脂株式会社(本社：大阪府大阪市、代表取締役会長兼 CEO：福井彌一郎)と「自発光ソフトライジングボラード」を共同開発し、8月1日より発売を開始いたします。



■弊社那須工場に設置した「自発光ソフトライジングボラード」

「自発光ソフトライジングボラード」(以下、「本製品」とします)は、地面下に収納されているボラード(車止め)が自動昇降して地上に現れ無人で車両通行を制御する施設です。上下に昇降するボラードは、特殊樹脂を採用しており、万が一の車両接触時の車体へのダメージを軽減します。また、高輝度LEDが常時点滅しており、ドライバーや歩行者からの視認性を高めています。

街側の環境整備として本製品を活用することで、生活道路(抜け道)・商店街(時間外の通行)・駐車スペース(違法駐車)および専用道(違法通行)の違法利用を防止させるとともに、交通事故防止や許可車両のスムーズな利用にも役立ちます。また、タイマー、リモコンおよび各種車両認識システムと連携することで、無人での道路通行規制を実現します。

本製品は、弊社と積水樹脂株式会社という長年、道路の安全・安心に取り組んできた交通安全用品メーカー2社が協力し、痛ましい通学路事故の削減を目指し開発を進めてまいりました。今後の展開としては、生活道路・通学路の安全対策は勿論、観光地の渋滞対策や防災・減災対策、民間駐車場など様々な分野への提案を進め、東京オリンピック・パラリンピック時の競技場周辺での車両制限等への導入を目指してまいります。

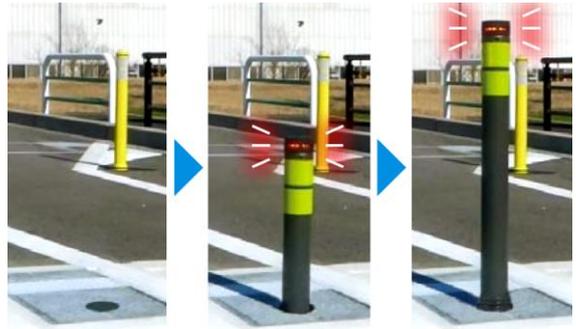
製品情報

「自発光ソフトライジングボラード」は、タウンマネジメントやロードプライシング(※1)に役立つ新たな施設として、以下の設置効果が期待できます。

なお、自動昇降の様子は、以下の弊社 WEB サイトにて動画でご覧になれます。

▼「自発光ソフトライジングボラード」製品ページ

<https://arc-nohara.co.jp/products/safety/softrisingbollard.html>



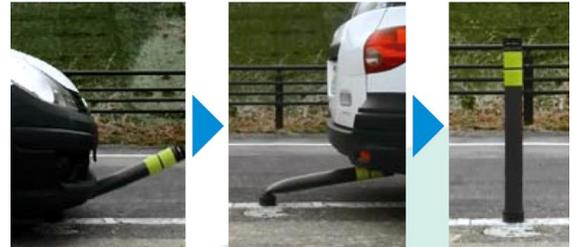
■ボラードが地上に出ると高輝度 LED が点滅し視認性を確保

<製品情報>

製品名：自発光ソフトライジングボラード

販売・施工：株式会社アークノハラ

製造：積水樹脂株式会社



■クリーブ速度での車両乗り越えに速やかに復元

<タウンマネジメントとして期待できる設置効果>

1. 確実な車両通行規制

- ・①タイマー制御、②リモコン制御、③他システムとの連携等による制御が可能
- ・降下時、ボラードは地下ボックス内に収納され、車両通行が可能

2. 交通事故の抑止

- ・許可車両のみの通行とすることで、生活道路(抜け道)・商店街(時間外の通行)・駐車スペース(違法駐車)および専用道(違法通行)の違法利用を防止

3. 道路管理の軽減

- ・無人での道路通行規制が可能
- ・システムの活用により遠隔での作動管理が可能

4. 街の“にぎわい”を創出

- ・曜日、時間帯での昇降設定により、イベントや歩行者天国の時間及びエリアの確実な確保が可能
- ・車両認識システムとの連動によりロードプライシング(※1)への活用が可能

(※1) ロードプライシングとは、特定区域への進入又は特定の道路の通行等に対し、課金等を行うことにより交通量を抑制することです。

ライジングボラードの導入に関して

今後、日本は人口減少が始まります。日本は人口減少時代に対応した地域社会のあり方として、コンパクトシティ化の検討が必要な転換期を迎えており、中心市街地の活性化のための歩行者空間の創出は重要になってまいります。既に、世界の主要都市の中心市街地では、車両進入抑止対策として鋼鉄製のライジングボラードが普及しております。日本では、これまで「ゾーン30」(※2)をはじめ、生活道路の交通安全対策がなされてきましたが、学童や住民の安全確保のため、近年はライジングボラードの導入を検討している自治体も増えてきています。

(※2) ゾーン30とは、生活道路における歩行者や自転車の安全な通行を確保することを目的とした交通安全対策の一つです。区域(ゾーン)を定めて時速30キロの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内におけるクルマの走行速度や通り抜けを抑制します。

(http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/kotsu/doro/zone30/about_zone30.html)

株式会社アークノハラについて

株式会社アークノハラは、「安心」「安全」「快適」な街づくりを合い言葉に、道路標識や視線誘導標、歩行者用観光案内標識などのサイン、ガードレール・遮音壁などの安全施設製品について、設計～製造～施工の一環したネットワークを構築してまいりました。これからも交通事業の発展及び環境整備の拡充と、安心安全な街づくりに貢献してまいります。なお、2018年春より、国立大学法人群馬大学と、自動運転車両と道路標識・視線誘導標等との路車間協調に関する共同研究を開始しております。

【会社概要】

株式会社アークノハラ

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：1987(昭和 62)年 8 月 3 日

資本金：5,000 万円

代表取締役社長：赤川 喜和

▼会社ホームページ

<https://arc-nohara.co.jp/>

野原ホールディングス株式会社について

2017年、創立70年を迎えた野原グループは、これまで建設業界を中心に建材や鉄鋼関連およびセメントなどの建設資材、道路交通標識などの販売・施工を通して、事業を拡大するとともに、時代の変化に合わせた変革や創造を繰り返しながら成長してきました。2017年7月には、さらに機動力をもって成長を加速させるべく、野原産業株式会社からホールディングス化をいたしました。

また、近年では、「建設業界のデジタル化」と「暮らしのデザイン」をテーマに、プロ向け建材通販サイト「アウンワークス」や建設情報のデジタル化を目指す新会社 BIMobject Japan 株式会社の設立、国内初のグッドデザイン賞受賞商品のみを販売するデザインショップ「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」、「特別な思いと時間をシェアする場所」として都内16ヶ所で運営中のレンタルキッチンスペース「Patia」など、新規事業を積極的に展開しています。

私たちは、これまでの歴史で蓄積した経験と知見、ネットワーク力を活かし、ICTを活用して、建設業界の生産性を飛躍的に向上させるイノベーターを目指しております。

【会社概要】

野原ホールディングス株式会社

本社：東京都新宿区新宿 1-1-11

設立：2017(平成 29)年 1 月 5 日

資本金：4 億 8,000 万円

代表取締役社長：野原 弘輔

▼会社ホームページ

<https://www.nohara-inc.co.jp>



【本リリースに関する問い合わせ先】

野原ホールディングス株式会社

社長室(担当/齋藤、中島)

電話：03-6328-1576

e-mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp

【本製品に関するお問い合わせ】

株式会社アークノハラ

企画開発部(担当/奈佐、安田)

TEL：03-3357-2442

e-mail：k-nasa@nohara-inc.co.jp hideaki-yasuda@nohara-inc.co.jp